

「岳陽」と共に

第 16 号

発行日
2023.11. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「二極化は宿命」のどちらかに与せなければ……!!

まだ、それほど人生を達観するほど生きてわけではないが(ただし、古人と比べればそうでもない?)、世の中(人間社会)は、「良い/悪い」、「勝つ/負ける」、あるいは「賛成/反対」、「与党/野党」というように、いつのまにか、二つの極(価値?勢力?)に分かれていく!!そして、「敵/味方」というようなことも、それと同じであろうが、人間の生き方(生き様)、そして集団のあり様は、結局は、そうした「二極化」の流れ・力の中で翻弄(蹂躪?)される(それは、ある種の「宿命」とも言える?)!!

しかしながら、実際は、その二極化は、単純なものではなく、明らかに多くの人を悩ませ、その中で苦しみを倍増させながら進んでいく!!それは、「一国」のあり様もそうであるが、そこにおいては、どうしても、どちらにも与ることができない個人や集団(国)を生み出すということにもなる!!そこに、第三極の居場所やスタンスが確立されればよいのであるが、多くの場合はそういうわけにはいかない?否、最終的には、不本意ながらも、どちらかに与させられる(選挙等は、その典型である!)!!

現在、「多様性」の主張というところで、あらゆる分野において、そこでのバリエーション(グラデーション?)に基づく価値や生き方が指向されているが、そのことは、ここで言う「二極化の宿命(悪魔性?)」にどのように対峙しているのか?決して綺麗ごとや掛け声だけでは済まされないのであるが、文学や芸術の世界はともかく、虚脱や厭世、あるいは憎悪だけで生きていかなければならないことだってあり得る?そうも、思うのである!!

○「ユーチューブ(動画)」の「ユ」

前にも述べたように、最近「ユーチューブ(動画)」視聴で、私の「ライフワーク」としての古代史研究(つてほどのものではないが)が、質はともかく、量(範囲)的には、これまでとは比べようもない情報収集や新たな視点の獲得につながっている!このことは、残念ながら?明白な事実であり、その存在意義には、最早疑義を挟むわけにはいかない!変われば、変わるものである!ということ、ここでは、そのことを、私の「セルフヒストリー」の、一つの重要なメルクマールとして位置づけ、それがもつ「メディア」としての意義や可能性について書き記しておきたいということである!古希を過ぎた高齢者、そして、かつてこうした文明の利器?をかなりの危惧(インフルエンサー)と称される怪しげな人物?そして、その職業化への動きに対する嫌悪感?でもって、傍から眺めていた私であつたということである!

ただ、改めて心配されるのは、巷間言われてきたように、旧来のマスメディアとの競合(特にテレビ?)であるが、単なる杞憂論では、最早その存在意義は打ち消し難い!簡単に言えば、どちらも重要なメディアだということであるが、これも、上記の二極化の運命を辿る!!ちなみに、YouTube(Google社が運営する世界最大の動画共有サービス)は、「投稿者に誰でもなれる」というのが、その最大の魅力(武器?)であるが、何がどのようにならされていくのかは、私にはまったく予想もつかない!場合によっては、想像を絶するような大変革(困惑も含めて?)を導く!!その兆候は、今も、既にある!

○「サトシ・ナカモト」?「ビットコイン」!!

ところで、これもまた、上記と同じような「文明の利器」についての話となるが、これについては、いささか複雑な心境ではある!と言うのも、同じように、便利で、有意義な発明品であつても(もちろん、それがもたらす害悪や不正も、同時に存在するという両面をもつものとは言えるが)、その発明者/開拓者自身が、その「利器性」を途中で放棄し(自らが欲していたような動きとならなかつた?)、その世界から、忽然と?消えていったというようなことを知つたからである!

しかるに、今日(11月14日)、いつものように、夕食後のテレビ視聴の時間帯で、他に興味を持たせるリアルタイム番組がなかつたので、たまたま録画してあつた番組を見たのであるが、それは、NHK総合の「市民X 謎の天才『サトシ・ナカモト』』というものであつた!番組を見始めると、すぐに、私にはまったく無関係な(むしろ嫌悪感を抱かせる?)「ビットコイン」に関わるものであつた!

要は、ここで書いておきたいことは一つである(否、二つかな?)!これまた恥ずかしながら、その「ビットコイン」については、初めて知ることがばかりであつたが(とりわけ技術的なことは、ほとんど分からなかつた!)、その開発者の「サトシ・ナカモト」という人物の謎が、本当に興味深かつたということである(彼は、何のために、それを開発したのか?)!

そこで、それについては、次のような記事があるので、その顛末としたい。すなわち、「今世紀最大級の技術革新、ブロックチェーン(事実上、改ざん不可能な分散記録システム)を世に放つたビットコインの生みの親「サトシ・ナカモト」。2008年、世界金融危機の中、突如現れ、こつ然と姿を消した存在は何者か?」「現代社会、最大のミステリー」とされる謎めいた存在の光と影、功罪に迫る。つまり、途中でいなくなつたのである!なお、この番組は、「名前も、金も、名誉も要らぬ」。正体不明、動機不明の謎の存在『市民X』が社会を揺り動かした出来事の真相に迫る新シリーズ」とある!このことも、ここでは是非書いておきたいということである!頑張れ、NHK!

『凋落』の三つの原因？ある意味「真理」かも？

今回は(もっ)、かなり社会派的なテーマが多くなるが、これまで漠然と思っていたことが、学問的に示されているように思えて、後追的な言い振りとはなるが、ここで少し書いておくことにしたい。それは、ここでもまたネット記事からではあるが、「日本はなぜ凋落したのか」アラブの歴史家が指摘した『三つの原因』から考える(『ディリー新潮』を見たことがきっかけである)。

そのリード文には、「太平洋戦争の敗戦から一転、戦後は高度経済成長を遂げて、一時は『ジャパン・アズ・ナンバーワン』とまで言われた日本。しかし、バブル崩壊以降は長期停滞に入り、二〇一三年のGDPはドイツに抜かれて世界4位に転落する見込みだ。」とある。

確かに、その事実？は、既に公表されているが、何故ここに、「アラブの歴史家」が？という興味もあつたので、その後を讀んでみた次第でもあるが、その記事は、「戦後の国際政治学をリードした高坂正堯・京都大学教授(1934~1996年)が、アラブの歴史家『イブン・ハルドゥーン』の思想を手掛かりに、文明が衰亡する原因を論じた、彼の『幻の名講演』を初めて書籍化した、新刊『歴史としての二十世紀』(新潮選書)から、一部を再編集して紹介するもの」とあつた。

最初は、私には、こうした文脈で、何故、アラブの歴史家(イブン・ハルドゥーン)が出てくるのか、まったく予想もつかなかつたが(高校の世界史で、確か名前だけは憶えていた)、読み進めると、その理由が、改めて分かつた(余計なことだが、高校の授業では、そういうことまで扱うことは無理であつたということもある?)!

労働力不足、若者の就業意欲の低下(ひきこもり状態)、社会の活力の減退?そういうことが懸念されている我が国であるわけであるが(GDP世界4位は、それが原因?)、高坂氏によると、「大衆が貧乏で一部が贅沢では国全体が禁欲的になりません。禁欲の精神が国」

民に行き渡っているからこそ、社会はうまくいきます。それに続いて、社会が栄えると、困ったことが起こります。皆が使う富が増えてきたときに、イブン・ハルドゥーンは失われるものが三つあると述べています。」とある。

「一つ目は意志の力(人間が強い意志を持たなくなる。…甘やかされて育った子どもより、貧乏な子供の方がなにも頑張る。苦勞しないで生活ができる。たまには面白い考えをする人間も出てくるが、平均的にはみんな頑張らなくなる。二つ目は忍耐(今の若者を寮や道場に放り込んで精神を叩き直そうと思つても無理で、彼らはその時だけ辛抱するだけ)。三つ目は「サビヤ」(団結心?)…つまり、お互いが繋がっていて兄弟であるという気持ち、やむを得なければ他の人の犠牲になつてもよいという気持ちのこと。文明が伸びているときにはこれが強いが、駄目になるとなくなる。『文明の勃興期においては、人間は総じて禁欲的である。贅沢をしない。よく働く』!!

最後に、私からすると、やはり、その3番目の「アサビヤ」(団結心?)が一番気になるということでもある! <短歌に託して〜いつの世も、かくの如し?〜>

- ・ あつちかこつちかで 済むのなら 生きるは易し? そうでないのがこの世なり!!
- ・ ユーチューブ 学者も素人も おかまいなく? ただ問われるは そのコンテンツ!!
- ・ ビットコイン 生みの親の 願ひも他所に? 技術と活用は やはり別!!
- ・ 「凋落」の原因 ある意味「真理」かも? ただしそれは、善悪ではなく!!
- ・ 日本根子彦 暗示であることは 分かるが その日本とは? (大 倭と同じや否や?)

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ⑩

〇もう一つの謎(怪?)!! 欠史八代最後の、第9代「開花天皇」! そして、もう一つの怪(謎)は、件の、欠史八代最後の天皇である、第9代「開花天皇(稚日本根子彦大目)」である! 彼は、第8代「孝元天皇(日本根子彦彦太尊)」の第一皇子で、母は皇后で、尊皇命(神代祖)の妹の「禰色謎命」。同母兄弟には、大彦命・少彦男命・倭迹迹姫命、異母兄弟には、彦太忍信命・武埴安彦命がいるという。

すなわち、彼は、母系的には、後の?「物部氏」とつながり、そこから「阿倍氏」「吉備氏」、そして、異母兄弟としての「武内宿禰諸族(蘇我氏)」「和珥氏」とつながっているわけである(あくまでも、その系譜が正しいという前提であればであるが)!! しかも、その異母兄弟の「武埴安彦命」が、実は、件の「大幡主命(天智太命)」でもあるということになるわけである!! 何という複雑(怪)げな人物(天皇)なのであろうか?

ちなみに、父の孝元天皇は、第7代孝靈天皇(大日本根子彦太尊)の皇子で、母は皇后で、磯城東主(または土市真主)大目の娘の細媛命。同母兄弟はいないが、異母兄弟に、倭迹迹日百襲姫命・彦五十狹芹彦命(吉備彦彦命・稚武彦命)がいるという。しかも、彼は、「神八井耳命(稚武の和和で)の長子とされる」の後裔(母方)とあり、だとすれば「多氏」とつながり、さらに、異母兄弟としての「吉備氏」ともつながっているわけである!!

なお、和珥氏は、第5代孝昭天皇(額松彦彦尊)の皇子・天足彦国押人命の後裔。そして、第6代孝安天皇(日本足彦国押命)は、その孝昭天皇の第二皇子で、母は皇后で、尾張連の祖の瀧津世襲(もろまき)の妹の世襲足媛。同母兄が、和珥臣の祖の天足彦国押人命ということになるわけである!!

(※以上の系譜は、すべて「ウィキペディア」より。何ともややこしいのであるが(漢字の読みも言めて)、こうした系譜の中で、次の第10代「崇神天皇」が、どこからともなく、大和に進出してくるのである!! であれば、この第9代「開花天皇」は、大和ではなく、北部九州にいたのかもしれない? として、その痕跡は、例の「老松神社」に隠されている? というふうにもなるわけである!! (つづく) (堂本)

〈編集後記〉あと一日で12月! 来年は、辰年で、私達は年男! とは言え、生活自体は何も変わらなず!! として、見た目も!! そんなことを思いながらの、今日この頃! 古代史、次からは、いよいよクライマックスに突入かも? (井上ノ堂本)